

# ぱびるす

聖学院大学総合図書館

第42号 (2006年4月)

改装記念 Part 2  
新入生歓迎号



## 図書館は大学のハート

鬼頭 梓

昔から大学の図書館は大学の心臓であると言われてきました。大学にとって無くてはならない一番大切な機関、最高の学問の府としての大学の権威を支え、これを支配するものという意味で、心臓とはいかにも適切な表現でした。表現でしたと書きましたが、今もその存在意義がまったく変わってしまった訳では勿論ありません。唯最近私は、大学図書館は大学のハートであると言った方がより適切なのではないかと思うようになりました。心臓は肉体の機関ですが、ハートは心臓を意味すると同時に、心という意味、人間の心にかかわる深い意味合いを持っています。大学図書館はそういう図書館に大きく変わりつつある、そんな思いから今回私は図書館の改装設計をするに当たって、大学のハートにふさわしい場所としてしつらえたい、と考えたのでした。

私が大学生だった頃、基本的には図書館の本はすべて書庫にしまわれていて、私たちはカードを一枚一枚めくっては目指す本を探し出し、コールスリップに書き込んでカウンターに出納を依頼し、待つこと10数分、時には数10分してようやく手渡された本は、凡そこちらの予想に反したものであったりして、がっかりした事も少なくありませんでした。今は全く違います。開架が当たり前になり、とりわけ聖学院大学は全面開架ですから、誰でもすべての本や資料の間を自由に歩き回り、自由に手に取り、読むことも借りることもすべて自由です。豊富で多彩なコレクションが、全く自由な場所として展開され、私たちを迎えてくれる、人間としての私たちのすべてに対応してくれる、私たちの心までを迎えてくれる、それにふさわしい場所をつくろうと考えたのです。

今も図書館が勉学の為の場所であることは言う迄もありません。でも、大学の生活が勉学だけではないように、図書館も又勉学だけでなく大学の生

活のすべてに対応しようとしています。友情や恋愛や失恋や、スポーツやクラブ活動の中で、自分は何を目指しているのだろう、生きるとは何なのか、どうしたらもっとよく生きられるか、もっと深く考えられるのか、そんな想いで、とりわけこの本を読もうとはっきりした目的なしでも、唯本の中を歩きまわっていると、時としてそんな私たちに本の方から語りかけてくれます。本の向こうの古今東西にわたる無数の著者たちが語りかけてきて、そこに思わぬ出会いが生じたり、魅力的で新鮮な本に出会ったりします。たとえ勉強がさして得意でない人にも心の支えとして対応してくれる、そんな場所として図書館は大学のハートなのだと考えてきました。

今はそれにインターネットが加わりました。インターネットは自宅でもアクセスできますが、図書館ではインターネットによるバーチャルな情報と、手に取れるリアルな本とが同居していて、一緒に使ってくれることを待っています。それができる場所は図書館しかありません。ハイブリッドな図書館として、大学生活になくてはならないオアシスのような場所としてあってほしい、すべての学生に喜んで貰える場所として永く生き続けて欲しい、と願っています。

(鬼頭梓建築設計事務所：総合図書館改装設計)



改装され図書館となった1階フロア

## 真理への畏敬

村 松 晋

本学の図書館には、人文・社会科学系の作品を中心に、実に「難しい本」が並んでいる。「こんな本、読みこなせる人がいるのだろうか」書棚を眺め、ため息をついた経験を持つ人も少なくないだろう。しかし、落ち込む必要は全くない。本が「読めない」「わからない」のは、年端のいかない、君のせいではないからだ。

人文・社会科学系の作品群が取り扱う領域は、すべて「人間」にかかわる点に特徴がある。然らば、「人間」とは何だろうか。思うに、この問いに答えることほど、難しいことはない。それは誠実に生活し続けたその果てに、ようやく、おぼろげながら解りかけてくる性質のものである。一連の「難しい本」たちは、そんな難しい問いかけに、生涯をかけて取り組んだ人々の、血と汗と涙の結晶だ。まだ若い君たちに、その世界が「わからない」のは、ある意味で、当然のことなのだ。

とはいえ、ここで開き直られるとしたら、それは私の本望でない。君たちに求めることはただ一つ、物事には、たやすく理解できることがらと、その真価を把握するには、相応の人生経験が求められることがらがある、この厳然たる事実を眼を啓かれること、そのことだ。

私たちは、たとえば古典のように、経験の深まりによってしか真価を把握できない作品に接すると、早急にその「意味」を求めようとするあまり、とかく、もどかしさや反発を抱きがちである。しかし私たちがそこで感ずる疑問とは、結局のところ、自分というものの限界を超えてはいない。己の小さな物差しで、広く、深く、遠大な領域を、「測った」つもりでいるだけだ。この謙虚な自覚が失われ、自己の未熟な感想が絶対化されてしまうとき、人は、いびつに硬化して、いずれ枯渇するのは必然である（参考：安達忠夫『素読のすすめ』、講談社現代新書、1986）。

「わかる」とはそもそもどういうことなのか、図書館に並ぶ一連の「難しい本」たちは、私たちにそんな問いかけを投げかけている。己を超えた領域からの、無言の教え・問いかけに、出会うためにも図書館は、訪れるだけの価値がある。

（日本文化学科 講師）

## 聖学院の底力と図書館への期待

黒 澤 浩

20世紀末から21世紀にかけて高度情報通信社会の進展にともない、図書館・学校図書館・読書運動に多くの課題と展望が開けてきました。まず、1997年に学校図書館法が改正されて司書教諭を置くきっかけができ、1999年には2000年を「子ども読書年」とする国会決議がなされました。2000年5月5日には国立国会図書館法を改正し、国立国際子ども図書館が開館されました。5月5日は皇后の隣席のもと記念式典とレセプションが開かれ、席上、聖学院小学校ハンドベルクラブの演奏が参会者に深い感銘と喜びをもって迎えられました。私は出席して偶然にも演奏を聴きながら聖学院の底力のようなものを感じていました。

私たちの国は21世紀初頭に実施された経済開発協力機構の調査結果から「読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであり、社会全体でその推進を図っていくことは極めて重要である。」と気づきました。「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年12月12日）や「文字・活字文化振興法」（平成17年7月29日）の制定はいずれも理念法ですが、じつは市民の責任が問われていると見ることもできましょう。

私たちは1945年8月15日を契機に平和を希求することの大切さを身に染みて感じ、憲法や教育基本法の理念を実現する努力をしてきました。問題解決学習や総合的な学習には資料・情報センターとしての図書館・学校図書館は不可欠です。終戦直後から感じてきた真理・真実に迫る理想を21世紀の今こそ現実のものとしたいものです。

幸い聖学院は21世紀に入りチャペルを完成し大学図書館を改装し人格の陶冶と知的探求の条件整備は整ってきつつあると言えるでしょう。平常授業時はもちろん、夏季の学校図書館司書教諭講習や司書講習でも今までよりもさらに大学図書館が底力を発揮することを期待しています。

（基礎総合教育部 講師）

## ● ● ● 新しい図書館って... ● ● ●

改装された図書館で、日ごろ図書館活動をサポートしているライブラリーアシスタントの皆さんに、新しい図書館について一言、学生の視点から語っていただきました。

1階には、多くの参考図書（辞書や事典など）が揃えてあって、気になることや、調べたいことがあったらすぐに調査することが可能なので、とても便利になりました。(C.Y.)(Y.T.)

1階は混みやすいので、ゆっくりしたい時は2～3階に行った方がいい。(K.R.)

PCの数が増えて期末の混雑する時期でも利用しやすくなった。(A.S.)



ビデオを見る場所の雰囲気がよくなった。(K.K.)

大学でインターネットやレポートの作成を多くの人ができるようになったのは、大きな利点だと思います。(H.K.)

学期末などのレポート作成時のプリンターの使用は、十分な時間の余裕をもってきてほしい。(Y.T.)

4階の絵本のコーナーがもう少し使いやすくなればとても嬉しいですね。(K.O.)

前よりもおしゃべりになったので、過ごしやすくなりました。(K.R.)

パソコンは一度電源を切ってしまうとデータが消えるので注意！(Y.T.)

パソコンですぐに調べられるように、カウンターの側に3台用意してあるので、頻りにパソコンを使うようになりました。(C.Y.)

デスクトップが増え、パソコンを使う人が急増した。パソコン室化した気がする。(K.K.)

\*今年度もライブラリーアシスタントの募集をします。詳細はカウンターまで！

## 寛ぎを求め図書館を歩く

103J013 石村直樹

大学の図書館には、アルバイトのない日以外、ほぼ閉館間際までいる。だが、実のところ私は図書館で本を読んでいるかどうか疑わしい。

私はその日の講義が終わると、早速、図書館へ行く。そこで、パソコンに向かい、バッグから講義で取ったメモを取りだし、それを打ち込むのだ。講義中、初めて聞いた用語などが出れば、専門の辞書を引き、「注」と打って要約する。そうすることによって、他の講義にも活用できるデータベースになり、大変便利なのだ。講義二、三本分を打ち終える頃には、時計は閉館の時刻を指している。そして帰る支度をし、夜勤務の図書館職

員のおじさんに「お疲れ様です！」と声をかけ帰宅をする。

ただ、開館時間内に終わらないことも多い。そんな時は早めにパソコンを閉じて、とにかく辞書コーナーを歩き回っては、チェックした用語が載っているページにしおりを挟む。そして、何冊もの分厚い辞書を抱えて、コピー機へと走るのだ。とりあえず、図書館でしかできない辞書引きだけ済ませ、後は、電車の中でゆっくり辞書のコピーを読み、家でパソコンに打ち込んでいく。

ゆったりとした知的な空間、図書館。ノート作りに追われる日々の中では、実感に乏しくなってくる。私にとってはむしろ、運動場といったところだろう（本を読んでいる人には迷惑な話だが...）。

とはいえ、そう毎日私も忙しいわけでもない。時には閉館まで一、二時間余らし、ノート作りを終わらすこともあるのだ。そんな時は、図書館を右往左往し、気になった本、雑誌なんかを読んだりする。おススメは映画を観ることだ。閉館の一、二時間前には大半の学生が帰っており、ビデオコーナーは静まり返っている。そこへ、一人ポツンと映画を観る。なんだか淋しい話だが、これがいい。周りからの雑音は聞こえない。自分一人の広々とした空間でゆったりと映画を見ることができ。そんな時は、何事も忘れ映画に集中することができ、その日の疲れも吹っ飛ぶ。これぞ、私の大学生活の中でもっとも贅沢なひととき…。

そういえば、アメリカの図書館のポスターにこんなことが書いてあったそうだ。

「If you feel like shooting yourself, don't. Come to the library for help in stead. (『世界』2005年8月号・岩波書店・「自殺したくなったら、図書館に行こう」虫賀宗博より)、「もし自殺したいと思っているならば、やめなさい。そのかわりに図書館へいらっしゃい。」そんなことを意味している。映画を観ながら贅沢な時間を過ごすように、図書館はなにも研究材料を提供するだけでなく、心を休ませる寛ぎの時間をもたらすのも一つの姿なのだろう。寛ぎの時間という、何も図書館内で本を読書することや、映画を鑑賞するだけではないだろう。書架に囲まれながら、ぼんやりそれらの本を眺めることや、窓の景色を楽しむのもいいと思う。私なんかの場合、図書館三階、クリスマスツリーが立つ側にある窓からの景色を眺めていると、おおいに寛げる。下を覗くと、学生達が楽しげに行き交ったり、ベンチに座ったりするのが見える。学内にいると、「大学生活」という実感が薄いのだが、そんな景色を眺めていると「大学生活なんだなあ」と改めて感じる。そう思いを馳せている内に、次第に肩の力が抜け、寛げるのだ。

私の大学生活も残すところ、後1年で終わる(順調に行けば…)。今後は卒業研究などに追われ、図書館を活用する機会もますます増えるだろう。だからこそ、研究だけではない、寛ぎの時間もあることを確認しておきたいものだ。そして、研究などで行き詰まった際には、寛ぎを求めて歩き回るのがいいかもしれない。(日本文化学科)

## 自分らしくいられる場所

103W068 田倉麻紀子

聖学院大学総合図書館と私との出会いは、ほんのつい最近と言って良いほどの事だと言えます。

私が大学に入学した頃は、まだリニューアルされる前の図書館でした。その頃も友達と一緒に利用していましたが、以前と比べてみると図書館を利用している時間が、今のほうが多くなっているなあと実感しています。

去年の9月に新しくなった図書館は1階部分を改装・増築して全ての階を図書館にし、パソコンやテーブル・席数も増えて、利用する人たちにとって、より使いやすくなり一人一人に合った図書館での過ごし方ができるような空間になったと思います。

現在では空き時間を利用して、じっくり時間をかけて自分のお気に入りの本を見つけて読んだり、レポートの資料に使う文献を図書館のホームページの中にある蔵書検索の機能を使い、題名や著者名、キーワードなどを入力して文献を探し出したりしています。本を借り、読んだりすることだけではなく、常設されているパソコンや貸し出し用のノートパソコンを使って、インターネットで様々な情報を検索したり、授業で課されたレポートや課題などを進めたりなどもしています。

また4階にあるグループ閲覧室も、増設されたことにより利用する回数が多くなりました。グループ閲覧室は何人かで話し合いなどをすることができる空間になっているので、友達と授業でお互いに分からなかったところを教えたり、話し合ったり、授業で出されたグループでの課題をみんなで集まって作業したりなど様々な時に友達と一緒に利用しています。

そして、私たちのことをサポートして下さる職員さんやライブラリーアシスタントの学生さんがたくさんいらっしゃいます。困ったことや分からないことがあったときは、とても親切に接し、対応してくれます。図書館は、大学のキャンパスの中で自分らしい時間を過ごすことができる場の一つであると思います。みなさんも図書館での自分らしい時間の過ごし方を探してみてください。

(人間福祉学科)

## 2005年度図書館の主な動き

- ▶ 図書館が改装されました  
2005年9月に図書館は新しく生まれ変わり、1 - 4階までと少し広くなり、より利用しやすくなりました。
- ▶ 図書館システムが変わりました  
蔵書検索用のシステムが更新され、より使いやすい、多機能なシステムになりました。このシステムでは、プライベートページで自分の貸出状況の確認、予約やリクエスト、ILLの申込みなどを行うことができます。
- ▶ ラーニングセンターが館内にできました  
2005年4月より、図書館2階に新たにラーニングセンターが設置されました。勉強に関する相談に応えてくれる、力強い味方です。(詳細は右記コラムをご覧ください)
- ▶ レファレンスカウンターができました  
カウンターにレファレンス席が用意されました。資料収集等に関する相談に、今まで以上にじっくりと取り組む環境ができました。



- ▶ 視聴覚コーナーになりました  
図書館3階の視聴覚室が視聴覚コーナーに変身。視聴覚資料もすぐ近くに並べられました。
- ▶ 館内のPCとネットワークが充実しました  
館内には60台のPCが用意されました。クイック検索用、印刷用、レポート作成用など用途に合わせて利用できます。3階ではノートPCの館内貸出も行っています。また1階、3階に情報コンセントが用意されるなど、館内のネットワーク環境も充実しました。自分のノートPCも持込みできます。利用の際はカウンターへお声がけください。

## ラーニングセンターの活動について

佐藤 逸子

2005年4月、学生の学習支援を行うため、聖学院大学ラーニングセンターが図書館2階に開設されました。その目的は、学生の基礎学力向上、および意欲・興味・関心を高めることです。センターには、様々な疑問や悩みを持つ学生が気軽に相談し指導が受けられるよう、2人の指導教員が待機しています。また必要なときには、担当の先生や関連部署と連携を取って、問題解決に対応しています。

1年目は大学での学習環境に戸惑い、不安を抱えている1年生を中心に、学生の個別の質問や相談に対応してきました。相談の主な内容は、学期初めの科目履修相談から始まり、授業での課題の取り組み方やノートのとり方、文章の読み取り方、資格取得関連などです。特にレポートの書き方や、要点のまとめ方などは1回だけでは不十分で、複数回にわたって実際の指導を受ける学生も見受けられました。はじめは戸惑っていた学生が、何回かやっていくうちにコツをつかんでいく姿を目の当たりにして、感動を覚えることもしばしばありました。9月には、図書館の新装に伴って部屋も改装され、非常に快適な活動ができています。

初めの1年間に延べ200人の学生が来室しましたが、今年度はさらに多くの学生のニーズに対応できるように関連教材や資料、情報を整備したいと思います。また、希望者を対象に、基礎的あるいは補習的な講座を開設することを現在検討中です。学生のために設置されたこのラーニングセンターを、誰でも気軽に利用し、活用して欲しいと願っています。  
(基礎総合教育部 講師)

## 図書館ツアーと オリエンテーション受付中!

お申込みは図書館カウンターまで。

# 図書館の統計

## I 図書館の推移

区分 年度	学生数 人	蔵書数 冊	年間受入冊数 冊	開館日数 日	貸出冊数 千冊	図書費 千円
2005	2,968	254,921	6,878	232	18.4	29,700
2004	2,938	247,250	8,287	275	17.5	30,400
2003	2,929	242,368	6,220	275	17.6	30,344
2002	2,931	235,745	6,223	271	18.4	33,805
2001	2,825	228,254	7,948	275	21	34,745
2000	2,549	219,368	6,769	274	18	35,805
1999	2,220	213,691	5,449	281	14.1	28,000
1995	2,137	163,506	13,438	271	21.5	39,700
1990	1,769	96,752	8,195	280	11.8	22,650
1985	1,005	51,000	5,043	284	10.1	12,399
1980	877	36,000	2,599	236	6.8	7,588
1975	763	22,000	4,265	183	3.5	3,754
1970	440	14,000	1,296	239	2.1	1,340
1968	256	10,000	2,838	[247]	[1.4]	[1380]
1967	125	7,000		[247]	[1.4]	[1380]

規程の変更に伴い、1999年以降は消耗品図書も含めた冊数とした。

## II 蔵書冊数 (2006年1月31日現在)

	和書	洋書	合計
総記	9,156	1,399	10,555
哲学・宗教	18,323	14,868	33,191
歴史・地理	15,803	3,021	18,824
社会科学(含教育学・福祉)	66,403	17,652	84,055
自然科学(含医学)	10,403	1,318	11,721
工学(含家事)	5,778	475	6,253
産業	4,194	442	4,636
芸術(含楽譜)	7,934	865	8,799
語学	9,890	2,581	12,471
文学	37,392	13,218	50,610
その他	10,197	3,609	13,806
合計	195,473	59,448	254,921

## III その他の資料 (2006年1月31日現在)

	冊数	資料種別	冊数
和雑誌(紀要・寄贈含)	508	カセットテープ	1,234
洋雑誌(寄贈含)	167	ビデオ・LD・DVD	2,409
スライド	34	CD	847
マイクロ資料	14,683	CD-ROM	361

## IV 館外貸出冊数(図書): 分類別 (2005年4月1日～2006年1月31日) 学生・院生・履修生のみ

	和書	洋書	合計
総記	442	0	442
哲学・宗教	1,797	53	1,850
歴史・地理	1,170	2	1,172
社会科学(含教育学・福祉)	6,483	8	6,491
自然科学(含医学)	1,006	0	1,006
工学(含家事)	370	0	370
産業	379	0	379
芸術(含楽譜)	1,014	4	1,018
語学	1,403	9	1,412
文学	2,952	35	2,987
その他	1,307	6	1,313
合計	18,323	117	18,440

## V その他(他館との協力等)

(2005年4月1日～2006年1月31日)

資料借用	81件(内、学・院生33件)	視聴覚室利用	2,625
資料貸出	32件	館内ノートPC貸出	3,469
複写依頼	288件(内、学・院生166件)	文献検索	36
複写受付	162件		
紹介状発行	37件(内、学・院生22件)		
紹介状受付	3件		

## VI 館外貸出冊数・学科・学年別

(2005年4月1日～2006年1月31日)

	図書合計	雑誌・紀要	CD-ROM	カセット	CD
院・政策2年	127	9	1	0	0
院・政策1年	76	3	0	0	0
院・ア2年	57	0	0	0	0
院・ア1年	84	2	0	2	2
院・後期3年	177	16	0	0	0
院・後期2年	178	2	0	0	4
院・後期1年	171	3	0	0	0
院・科目等	6	0	0	0	0
院小計	876	35	1	2	6
政治経済4年	562	18	1	0	0
政治経済3年	640	29	1	0	1
政治経済2年	495	13	0	2	0
政治経済1年	491	7	3	0	0
コミュニティ4年	151	7	0	0	7
コミュニティ3年	466	1	0	0	1
コミュニティ2年	504	6	1	0	7
コミュニティ1年	290	28	0	0	3
欧米文化4年	649	20	0	1	12
欧米文化3年	982	16	7	0	23
欧米文化2年	587	35	0	2	5
欧米文化1年	592	23	0	1	10
日本文化4年	690	17	2	1	5
日本文化3年	1,303	49	0	17	11
日本文化2年	1,089	47	0	0	22
日本文化1年	572	42	0	0	2
児童4年	1,123	73	1	0	4
児童3年	1,301	41	3	0	1
児童2年	1,598	9	0	0	2
児童1年	485	1	0	0	1
人間福祉4年	920	40	0	1	0
人間福祉3年	787	42	0	0	2
人間福祉2年	622	3	0	0	9
人間福祉1年	394	10	0	0	1
科目等履修	271	7	0	0	0
大学小計	17,564	584	19	25	129
合計	18,440	619	20	27	135

発行・編集 聖学院大学総合図書館  
〒362 8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号  
電話 048 725 5461 FAX 048 780 1096  
E-mail: lib@seigakuin-univ.ac.jp  
URL: http://www.seigakuin-univ.ac.jp/scr/lib.asp